

# The Real Face

焦らし上手な女神様と、神様の贈り物  
ようやく叶った、インタビューである

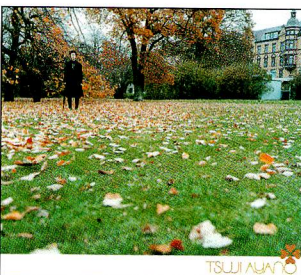
過去、雑誌で彼女にインタビューをする「予定」が二度あった。相思相愛ながら、諸事情で実現しないまま、そして女神は、三度目によくやく微笑んだ。「神様からの贈り物」なるものが、本当にこの世にあるのなら、それは彼女の声を言うのだろう。彼女が最も好きな季節だといふこの時期にイン

「自宅」と、「鴨川」と、「自転車」と。  
These are a few of my favorite things.

大好きな京都の、大好きな季節。今は東京住まいだが、出身地と向き合うスタンスは、「行く」と思うか、「帰る」と思うか。その一言で全て解るものだが、「あ、そうかそうか」と、改めて気付いたように呟くほど、彼女にとって京都は当たり前「帰る」場所。何故好きか？を問うほどの愚問もあるま

なんですけど（笑）、でも自分は車椅子の方が通る邪魔にはならないようにとか、自分の中では迷惑にならないような場所を選んでるつもりなんです。それでね、反省して駅前の駐輪場にちゃんと停めてた時期もあるんです。でも、撤去の日になると一気に駐輪場が満杯（笑）。これは何とか。ホントにね。行政の方に（笑）。有料でもいいです。駐輪場をもっと。あと、すごいシヨックだったのが、真つ屋間の、まだお

ね（笑）。でも京都のテンポは守って欲しいな。きつと大丈夫だ。こう思える人には、禍の方が遠慮する。ヤバイことはないだろう。「帰郷が一年に一回とかいうことは、ぜったい、ないです」。さすがに帰る理由の全てがオフと言うほど有閑ではないが、「仕事で帰って、その後の一日、二日を過すことか、ライブやアルバムの仕事が終わって、曲づくりに入るときとか」。彼女の曲は、そのほとんどが家で生まれる。それほどまでに大



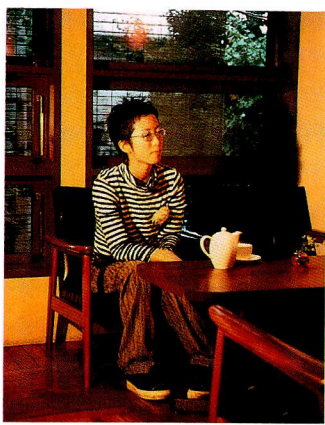
TSUJI AYAYI

# つじあやの

タビユが叶ったことも、神様からのプレゼントと思いたい。

「あぁ。そう言えばそうかもかもしれませんね。『え?この京都出身だったの?』っていうことはありますよねえ。ハタと思いついたように彼女も言う。『京都出身』を声高に謳う者が少ない(と思える)業界で、彼女の『京都好き』は有名を通り越して代名詞と言っても良い。これほどまでに京都を『好き好き大好き』と言っていることに抵抗は全く無かったですね(笑)。」

春に始まり、春に終わる。「CALENDAR CALENDAR」という、彼女の一年を始めたアルバムがリリースされた。一番好きな季節を問えば「今、ですね。秋から初夏が最も好きだ」と。「夏が嫌いっつものもあるんですけど(笑)」。季節をテーマにしたアルバムのリリース直後でも、サラリと個人的なコメントをもらえたことを、また神に感謝する。この季節が好き理由はシングル「ゆびきり/星降る夜のクリスマス」の内容と符合する。「そうですね。春も好きなんです。春って、華やかで色んな人と出会って、新しいことがいっぱいあって、すごく楽しい。で、例えば好きな人と盛り上がった夏を過ごして、秋で落ち着く。その『落ち具合』がすごく好きで。そこで気が少し緩められたり、まったりしたり。シングルについても、ゆびきりしなくてもいいっていうくらいに『ふたりの心が重なってきたな』という心持ちが、自分としては秋とか冬とかなんです。彼女が言う『落ち具合』というのは、相手が人でも環境でも『自分を預けてしまえる』という感覚だ。



「うん!キリがない(笑)。だが粘る。好きな順から頭みつつを挙げて下さい。『頭みつつ?』(笑)。ひとつは自宅。即答である。両親と兄と姉に囲まれて育った家。音楽に関しては、姉の影響が大きかった。前作のアルバム『COFFIN』で唄った「チエリー」。スピッツの存在を覚えてくれたのも姉だった。姉としてはちょっと自負もあると思うんですよ。『私の方が先やった』と(笑)。でも私が唄うことについては、いつどこでも自分の事のように反応してくれました。」

ふたつめは鴨川。「ライブもやってきましたけど、音楽だけじゃなくても、高校も近くて、画を勉強した頃も、本を読んだ時も、好きな子のことも、漠然と自分の将来のことも、色んなことを鴨川べりに座って考えてましたから。お金払って行くわけでもないし、ごく自然に、すごく好きです。鴨川を愛する人のランクは間違いなく上位だろう。『さうさかねえ』とホイッシュに答える彼女を、勝手に暫定全国三位に認定して差し上げた。『ありがとございませう(笑)』。」

さて、みつめ。「難しいですねえ...。そう、一と二だけが頭抜けてるんですよ。も『一、二、たくさん』で(笑)。ただ『残して欲しい』という意味では、自転車でも走りやすい場所は残して欲しい。彼女を語る上で外せないキーワードが、勝手に出てきた。勤が良いのか、察していただけているのか、何とやりやすい。京都と自転車もまた、切っても切れない縁である。

### 日常的な、それはあまりにも、京都にとつて身近なお話の数々。

今までは、毎日のように見てきた京都。今は2カ月に一度のペースになった。それまでは気にならなかつた小さな変化が、大きく感じられることもある。本誌ではお決まりのような意地悪な質問なのだが、『変わってこれた』ことよりも、『変わっちゃった』ことを、これからの京都に活かしたい。

「うん。なるほど...。いくつかあるんですけど、それが正しいかどうかもありますし、ちっちゃいことでも、いいですか...?また自転車のことなんですけど(笑)。何回も持ってたから、置いといてるんですけど、ダメ(そこでいらに)置く私もダメなんです。ダメ

散歩とかできる時間やのに、鴨川の川床の間近で若い人が花火をバンバンやってるんですよ。煙たいしうるさいけど注意もできないんで(笑)。変わったなあと(笑)。」

大学時代から気に入ってよく行く店は、あんなに言うんですかね。あんまり『常連さん』みたいなのは好きじゃなくて、普通にそこが好きだから行って、お茶飲んで帰るっていう感じで。例えば木屋町あたりの常連文化などは一片も感じないのだが、『あんまり社交的な方じゃないんで、京都に近い仲間というか、集まって固まっちゃったっていうのはあるかもしれないね』という言葉を聞くと、純度の高い京都を保っているのだなと思える。

### これからの、大好きな京都には、こんな風であって欲しいと思う。

両親と兄姉がいて、家があつて、駐輪場ができて、昼間の鴨川に花火は上がらなくなつたとして、そして京都はどんな場所であり続けていて欲しいのだろう。

「服屋さんに行った時に思ったんですけど、『京都ブランド』ってのが乗っかってると思うんですよ。それが普通なら7~8000円の商品が1万いくらになつて理由ではないかと。まあそういう(京都色の強い)格好いい店やし、というのには解るんですけど、そうではなくて、もっと普通の目で、自分たちが選んだ物を見て評価して、人に渡していくというのを守つてこそ京都なんじゃないかなと。ブランドはいつか消費されていく。一部では京都パブルと感ぜられてる危機感。『さうさうさう。もう何年後かが心配つていう感じはありますね。』

こういう考えの持ち主には、今の京都にある余計なものを見て欲しくないし、知って欲しくない。知つてしまつても、彼女が京都を嫌になることは、ないだろうけれど。

京都に戻れば、移動は自転車と、電車。取材場所にも車ではなく、喜んで電車に乗つて現れた。『電車に乗るとさうい安心するんですよ。喋ってる人の言葉が、自分にとつてはすごく懐かしいものだから。これは自分でも良くない傾向だと思つてるんですけど、『電車内で京都弁を聞くだけで』あぁ、みんな良い人やなあ』と(笑)。これってヤバイですよ

切な場所に戻ってきたときは、左京区周辺から街なかまで、近所の本屋へ飲食店へ...。ラブラブしてます(笑)。」

つじあやの。全ての音域で変わらない、フルセットに行くか行かないかの絶妙な線にある、時にもどかしいまでの天使の声を聴き、誰も安堵し、朗らかなさを思い出す。今日もどこかに、自転車でスイスイ走る彼女がいる。あまりに自然に、溶け込んでいるから、誰も気付かないかもしれないけれど。だからこそ、シンガーとして、女性として、人としての彼女であるのではなからうか。

取材が終わりに、去り際に彼女は言った。『編集部、大学のサークルの後輩がいるって聞いたんですけど、私、途中でサークルを辞めちゃつたんで、先輩がその後どうしてるのかとか、知りたいんです。また今度で良いので、教えて下さい。』少し申し訳なさそうに言う彼女を見て、さらに彼女の声と歌が支持され、愛される理由が解つた気がした。

### つじあやの

京都市左京区生まれ。銅駝高校~龍谷大学卒業。高校時代、フォークソング部に所属し、どこにでもある楽器店で生涯の友「ウクレレ」と出会い、鴨川畔でミニライブを行うなど、音楽活動を始める。大学でもフォークソング部に入り、フォークユニット「うららかに」を結成。'98年9月、インディーズレーベルより、サンプルカセット「悲しみの風」をリリース。翌年VICTORよりアルバム「君への気持ち」でメジャーデビュー。以来アルバム11枚、ミニアルバム2枚、フルアルバム5枚をリリース。もはや「京都系」という形容詞は似合わない。「本当の京都の人で、シンガー」である



http://www.jvcmusic.co.jp/speedstar/urarak/

**LIVE つじあやの一年半ぶりの全国ホールツアー「CALENDAR MUSIC」決定。チケットは全て発売中。**

<b>2005.12.05 (月)</b> @仙台青年文化センター 交流ホール 開場 18:30 / 開演 19:00 【問】 CP 022-222-9999	<b>2005.12.12 (月)</b> @広島NTTクレドホール 開場 18:30 / 開演 19:00 【問】 夢番地 082-249-3571
<b>2005.12.07 (水)</b> @山西福祉記念会館三田分館ホール 開場 18:00 / 開演 18:30 【問】 三田市文化振興基金協会 079-559-5022	<b>2005.12.14 (水)</b> @福岡イムズホール 開場 18:00 / 開演 19:00 【問】 BEA 092-712-4221
<b>2005.12.09 (金)</b> @名古屋市芸術創造センター 開場 18:30 / 開演 19:00 【問】 サンデーフォークプロモーション 052-320-9100	<b>2005.12.18 (日)</b> @九段会館 開場 16:30 / 開演 17:30 【問】 HOT STUFF 03-5720-9999
<b>2005.12.11 (日)</b> @大阪市中央公会堂 (大集会室) 開場 17:00 / 開演 17:30 【問】 サウンドクリエイター 06-6357-4400	

**RELEASE**

オートム・ウィンター・シングル (写真右)  
10~11月度 NHK「みんなのうた」  
「ゆびきり/星降る夜のクリスマス」 発売中  
1200円 (税込) VICL-35875

アルバム「CALENDAR CALENDAR」 発売中  
VIZL-163 [初回盤: CD+DVD] 3500円 (税込)  
VICL-61772 [通常盤: CD] 3000円 (税込)  
※初回特典! DVD『PVカレンダー』  
「春風」「Shiny Day」「愛の真夏」「ゆびきり」  
「星降る夜のクリスマス」全5曲ビデオクリップ収録

